

AKB48 秋葉原物語

12/10/2011

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

秋葉原は電気街というイメージがありますが、駅周辺は再構築され、オフィスビルも立ち並ぶ街となっています。そんな街に私は今年三回ほど足を運んでいます。そこは、AKB48の本拠地であり、そのファンである人と同行しています。

私は昨年夏から知的障害者の行動支援として、休みの日に、ある青年に同行しています。その青年は今年24歳となった男性で、発語がしっかりできないなどの不安があるのです。ただ本人は周りの人の話を聴いて理解することはできるので、お互い不自由の中でも意志疎通はできます。

そんな彼の外出の興味は、先ほどの「AKB48」とそのメンバーの前田敦子さん、そして「電車(乗り物)」見学とその運転手です。

さて外出風景です。いつも彼の最寄駅で待ち合わせし、本日の行くところを再確認します。きちんとした本人の意志はあり、行きたいところはメモにし、しかもお土産を買うこともメモに入っています。そしてお金を預かり出発です。電車代は私の分を入れて大人1名分ですので、遠出しなければ大した費用にはなりません。(本人は半額の制度) 彼は、電車の運転席の後方に陣取り、目的地の駅まで運転席の操作と前方を見ています。何ととっても運転操作を見るのが楽しいようです。1時間でも平気で立って見えています。まるで小さな男の子と同じですが、違いはまずは飽きることがないことです。目的地の駅に着くと、ホーム上で他の路線の電車や運転手を見たりして10分ほど楽しんでます。特に、女性の運転手や車掌を見ると大変です。照れながら食いつくように見えています。IQは小学校低学年程度であっても、異性を見る目には歳相応のものを感じる時です。

先日は、今年二回目の秋葉原 AKB48 のショップに行きました。(写真)

11時の開店前にはすでに40名のファンの行列。開店後10分程で入店できました。早速メンバーの前田敦子さんお薦めという「オムライス」を注文。

高校生のような女の子が揃いのユニフォーム姿で注文をとったり配膳したりしています。

客の多くは10代とあって、私は照れ臭いのでいつも父親のような感じで付き添っています。

他にも私と同じような親子的な人がいて一安心するときもあります。

実は原宿竹下通りの入り口にも

「AKB オフィシャルショップ」があります。最初に行った際に、「予約がないと入れません」という店員の声に、彼は啞然として、そこから立ち去ろうとしなかったのです。彼には何が起きているのかは理解できているものの、店に入れなことが悔しいのです。数分が経ち、気持ちが納まる



秋葉原の AKB ショップ前にて。駅ホーム高架下

のを待って「また来よう」と声をかけ、そして竹下通りを進んで行きました。その時の彼の姿は大変印象的でした。

電車に乗って行く先の一つに、大型ショッピングセンターがあります。そこでの主な行動は、模型電車のショップを覗き、電車モックに乗り疑似運転をしたり、カラオケ店でAKB48の歌をったり、バッティングセンターで50球ほど打ったり、そしてコインで動く子供用の車に乗って遊ぶことなどです。また昼食は殆どマックか回転寿司です。私が最初驚いたのは、カラオケです。彼は発語できないにも関わらず、ボックスではリモコンで選曲し、マイクを持ちAKB48の歌を歌うのです。確かに、一般の人には聞きづらいかもかもしれませんが、一生懸命発声しているのです。彼にとっては立派な歌なのです。そして力を発揮する場なのです。また映像にお気に入りの前田敦子さんが出てくると、私に「見ろ見ろ」と言わんばかりに指を差しだし私の胸をたたいて合図してきます。いつもそのような時の態度は、私の息子が子供の時と同じように「わかったよ」とか「はいはい」と言っています。本当に素直なのです。

私は彼と行動するようになってから1年以上が経ちましたが、彼から学ぶことが多いです。

まず、自分の意志がはっきりしていることです。今日はどこへ行きたい。またこの次はどこに行きたいということ自分で決めると一生懸命、そのことについて調べてきてくれます。多少のアドバイスは必要でも自分のやりたいことは明確なのです。今の世の中、いろんな遊びがありますが、あれもこれも選択はしないのです。これは、ひょっとしてこれまでの学校生活や生活経験の中から生まれてきているのかも知れません。

つい先日、横須賀でバス乗車見学がありました。 どうも1時間待ちのようで、近くのお母さんは小さな子に「1時間待つから他に行こうよ」と言っています。私も自分の子供だったらそう言っていることでしょう。しかし、彼の気持ちや行動を大切にしたいから、ここはじっくりと待つことにしました。 私基準で判断したり、行動しないことにしているからです。そして1時間ほど待ち、たった1分間でしたが、バスの運転席に座りハンドルを握り、降りてきた時の彼の顔は大変満足気なものでした。

いずれにしても、彼と行動することで私自身の未知なる部分を引き出してくれていることに間違いはありません。今後も彼と行動できることを楽しみにしています。

以上